

会 議 要 旨

会 議 名 (審 議 会 等)		第 5 回南あわじ市文化財保護審議会（門崎砲台跡の保存・活用）
事 務 局 (担 当 課)		南あわじ市教育委員会 社会教育課
開 催 日 時		令和 6 年 7 月 2 6 日（金） 1 4 時 0 0 分～ 1 5 時 5 0 分
開 催 場 所		南あわじ市役所第 2 別館第 5 会議室
出席者	委 員	堀部るみ子、竹田俊道、正井良徳、岡崎正信、前田拓也、関口功、木田徹、吉田文洋、唐澤靖彦、坂井尚登、飛田俊紀、赤穂秀樹
	事 務 局	福田龍八（教育次長） 眞野匡史（社会教育課長） 郷野仁史（社会教育課主幹） 山崎裕司（埋蔵文化財事務所調査員）
議 事		（ 1 ）本砲台の復元の方向性について （ 2 ）本砲台のソフト面の活用について
議 事 要 旨		別紙のとおり

第5回南あわじ市文化財保護審議会 議事要旨

○ 議 事

(1) 本砲台の復元の方向性について

- ・委員からの意見はなかった。異議もなく出席者12名のうち会長を除く11名の委員が賛成し承認される。

(2) 本砲台のソフト面の活用について

本砲台のソフト面の活用について議論を行い、委員からは下記の意見が出された。

【看板】

- ・砲台がもともとあった道の駅のところに設置できれば良い。
- ・復元が可能な場合には、復元した砲台のそばに設置が必要と考える。

【市民講座・速報展・ワークショップ・出前講座】

- ・子どもにも分かりやすい、戦争遺跡をまとめたパンフレットまたは冊子を本審議会で作成していければ良い。

【AR】

- ・砲台を深く知ってもらえる手段の一つであり、砲台があった場所で見えるようにできれば良い。
- ・看板やパンフレットにQRコードを設置し、スマートフォンを利用して多くの人に見てもらえる。

【ジオラマ】

- ・数人が囲んで見られる大きさは必要であり、門崎砲台は一畳分の大きさがあれば、かなり緻密に作製できる。
- ・目に入ってくる構造物として良いと思う。
- ・日露戦争の際に造られたものなので、その時代の形を作製できれば良いと思う。
- ・若人の広場に、説明パネルと一緒に設置するのが良いと思う。
- ・建屋や設置場所、予算に応じて大きさは変わってくる。

【VR】

- ・岐阜関ヶ原古戦場記念館では、VR専門の職員がお客さんに付いている。
- ・導入費用だけでなくメンテナンスにも費用が掛かるため、VRよりもARの作製を優先させるのが良いと思う。
- ・管理する人を配置してまでVRを実施したいものか、現実的に難しいと思う。
- ・史実に照らした出来事を表さないといけませんが、実際には砲台は使用されていない。

【副読本（ふるさと淡路島・キッズ南あわじ）】

- ・小学生が理解できるレベルの分かりやすい説明が良い。
- ・戦争のことは小6の社会の歴史の中で取り扱う。キッズ南あわじは小3・4年が対象だが、掲載しておけば小6になったときに使えると思う。
- ・授業として、教師が子どもたちに戦争を伝えていく手段の一つである。
- ・副読本が、戦争を美化するような取り上げられ方はないように進めてほしい。

【その他】

- ・門崎砲台をはじめ、若人の広場公園などの戦争遺跡を広く周知し、市の平和への取組みに多くの人が興味関心を持ってもらうために、例えば若人の広場公園で毎年開催される戦没者追悼式に平和を願った手紙やメッセージなどを募るのはいかがでしょうか。
- ・現段階では、看板やジオラマ等の設置場所を特定することはできないため、事務局には作製する大きさや費用などの調査を継続して行ってほしい。

南あわじ市文化財保護審議会 次第

日時 令和6年7月26日（金）

午後2時00分より

場所 南あわじ市役所第2別館
第5会議室

1. 開 会

2. 報 告

- （1）本砲台付近のコンクリート構造物の発見について

3. 議 事

- （1）本砲台の復元の方角性について
- （2）本砲台のソフト面の活用について

4. 閉 会

門崎砲台跡の保存・活用における審議内容（まとめ）

これまでの審議会にて下記の内容について審議した。

- ① 門崎砲台跡の現状と今後の方針についての共通認識
- ② 令和6年度砲台跡活用事業の検討
発掘調査成果の活用や歴史遺産価値の啓発に着目し、1～3の事業を進めていく。
 1. 門崎砲台をわかりやすく解説したパンフレットの作成
 2. 発掘調査報告書の作成
 3. 市内の戦争遺跡について講演会やフィールドワーク等を実施
- ③ 本砲台の復元候補地の視察と検討
6つの候補地について審議する。
- ④ 本砲台の復元方法の検討
7つの復元方法案について審議する。
- ⑤ 本砲台のソフト面の活用の検討
教育面及び観光面の分野で活用できることを審議する。

結果、門崎砲台跡の保存・活用において、次のようにまとめる。

【復元場所・復元方法】

- ・ 現物又はFRPによって原寸大の復元を行う場合、設置場所や費用面において課題がある。
- ・ 現物で復元する場合はさらに毀損することとなる。
- ・ 今は費用をかけず、50分の1から80分の1サイズの門崎砲台のみの縮尺模型（FRP）と説明パネルを設置し、その付近に現物のピースを展示できれば良いと思う。
- ・ 切り出したピースは猶予を持たせて、研究が進んでいく中で利用できるのではないかな。
- ・ 将来的には、門崎砲台跡だけでなく、鳴門要塞一体を整備していけたら良いと思う。

方向性

高額な費用がかかるのであれば、復元については工法技術の進化、適正な財源の獲得等の調査を継続していく。

【ソフト面の活用】

- ・ 歴史的な出来事を後世に残すため、教育面、観光面それぞれの分野でソフト面の活用は必要である。
- ・ 小学生用の副読本に本砲台のことを掲載するのも活用の一つだが、市内の他の戦争遺跡も併せて南あわじ市の戦争に関する子供用の冊子を作成してはどうか。
- ・ ジオラマの製作は必要である。再現の規模感や範囲、展示場所などを検討していく。
- ・ ジオラマでの当時の様子の再現や、VRは緻密に作成するほうがよい。
- ・ 展示する際、説明パネル等は、専門家の意見を聞きながら正確に作成すべきである。

方向性

- ・ 看板の設置
- ・ デジタル技術（ARやCG技術等）の活用
- ・ ジオラマの製作
- ・ 市内の戦争関連遺跡を解説したパンフレットの作成
- ・ 教育面での取り組み（副読本などでの授業での扱い、アフタースクール等での扱い）

門崎砲台の保存活用について

	概要	効果・活用	課題
砲台の復元	切り出した遺構またはFRPを用いて、原寸または縮尺で、射撃口または全体を復元する。	類例のない砲台であり、市の歴史遺産として後世に継承していける。	・風致保護上の支障等に考慮した設置場所の選定 ・高額な費用が必要
看板の設置	復元した砲台のそばか、砲台があった道の駅に設置する。	わかりやすい解説を入れることで、当時の砲台がどういったものか理解でき、時代背景などを伝えられる。	・設置場所の選定 ・解説の工夫（多言語の必要性等）
市民講座・速報展 ワークショップ 出前講座	市内の戦争関連遺跡(鳴門要塞、若人の広場、桜ヶ丘公園、〇〇飛行場など)のわかりやすいパンフレットの作成、市民向けの現地見学会を実施する。(埋文職員が解説を行う。)	市民を対象に砲台をはじめ、その時代背景をわかりやすく解説する講座や展示会を開催し、戦争の歴史や悲惨さを啓発することにより、平和教育を推進する。	
ARの製作	砲台があった場所(道の駅)で現実とデジタルの世界を融合させた映像をスマートフォンを利用しながら、説明書きだけでは想像しづらい当時の砲台の様子を体験できる。 ※管理する人や場所は不要。	自分のスマートフォンを操作しながら、映し出される映像により、なぜこの場所に砲台が必要だったのか、どのように国を守ろうとしたのかなど、当時の時代背景を知ることができる。	
ジオラマの製作	砲台とその周辺の風景を立体的に展示する。	穹窿砲台だけでなく、門崎砲台全体あるいは鳴門要塞全体の配置状況を再現することで、要塞の機能がイメージできる。また、地理的、地形的な条件でなぜ、この場所につくったのか、明治の先人が苦勞して作ったという状況を知ることができる。	・設置場所の選定 ・再現の大きさや範囲や時代
VRの製作	ゴーグルを装着することで視界の360°が覆われ、CGで作った限りなく現実に近い景色を体験できる。	当時の砲台をVR映像化することで、なぜここに砲台を設置する必要があったのか、どのようにして国を守ろうとしたのかを体感することで戦争というものを考える。	・設置場所の選定 ・管理と人の配置が必要
ふるさと淡路島	淡路教育事務所が作成している島内3市の小5・6年生を対象とした副読本に掲載する。 ※ 次回改訂R9(R7は巻末に差し込み可能) ※ 前年秋までに掲載内容の決定が必要	小学校の授業で戦争関連遺跡(由良要塞、〇〇飛行場、若人の広場など)が取り上げられることで、淡路島の戦争の歴史や平和の尊さを考え、平和教育に繋げていく。	・掲載した内容を授業で取り上げられるための取り組みや工夫が必要
キッズ南あわじ (副読本)	市内の小3・4年生を対象とした学校教育課作成の副読本に掲載する。 ※ 次回改訂R9 ※ 前年秋までに掲載内容の決定が必要 ※ 副読本には、戦争関連遺跡に関する掲載は現在なし		
タブレット (デジタル副教材)	キッズ南あわじに掲載する内容をデータ化し、学校にあるタブレット端末を使用して子供たちの学習に役立てる。 ※ 前年秋までに掲載内容の決定が必要		
アフタースクール わんぱく塾	児童を対象に体験プログラムを実施する。	学校の授業では取り上げられない部分を扱うことができる。	・体験プログラム講師の選定 ・開催日時の調整(長期休暇・平日) ・座学と現地見学の調整